

## 事後評価報告書

(ベルモント・フォーラム CRA「Food Security and Land Use Change」)

1. 研究課題名：「アフリカのサハラ以南地域における商業作物増産の食料安全保障への影響」

### 2. 研究代表者名：

日本側：（東京大学）（サステナビリティ学連携研究機構）（准教授）（アレクサンドロス, ガスパラトス）

相手側1：（英国海外開発研究所）（農業開発政策部）（部長）（アンナ, ロック）

相手側2：（英国キュー植物園）（科学部）（部長）（キャサリン, ウィリス・J.）

相手側3：（南アフリカ科学産業研究会議）（自然資源環境部）（シニアリサーチャー）（グラハム, フォン・モルティッツ）

### 3. 事後評価結果

#### (1) 研究成果の評価について

商業作物増産の食料安全保障への影響について、8カ国で現地実態調査を濃密に実施し、非食用作物生産の実態と問題を明らかにした。これらの成果は、影響力の大きな雑誌を含めて15編の査読付き論文投稿として発表され、学術的水準は高い。また、学術誌の特集号、Springer社から2つの編著書などを通じて普及も積極的に行った。一方、終了報告書には研究成果の内容に関する具体的な言及が乏しく、CGEモデルの成果や特定の事例研究地域における商用作物プロジェクトごとの帰結なども明確ではない。今後これらの点を整理・分析し、成果の公表と普及に努めてもらいたい。

#### (2) 交流活動の評価について

広範な交流活動により、8カ国20か所の事例収集が可能になった。また、英国キュー植物園との「種の分布モデル」作成、モデル分析と事例研究の効率的共有など、国と分野の異なる研究者間で共同研究が推進された。英国海外開発研究所による技術/政策レポート、国連大学チームによるワーキングペーパーの出版などによる社会との交流も評価できる。一方で、相手国研究者との共同発表論文は1編しかなく、ステークホルダーのワークショップにも参加者が少ない。さらに、政策提言の有効性なども不明な点が多く、今後の協働に対する努力が望まれる。

#### (3) その他

現地調査や種の分布モデル作成などで、相乗効果はあった。ただし、研究全体がまだ途上という感があり、追加調査補助あるいは他の研究助成を確保できれば、さらに研究成果を発展させる見込みがある。